 福岡県立嘉穂東高等学校
全校が一丸となった授業改善

第4号は福岡県立嘉穂東高等学校の取組です。同校は創立107年を迎え「清純・礼節・理智・勇氣」の校訓の下、歴史と伝統を受け継ぎ発展させる中で、志高く、明るく爽やかな生徒の育成を目指して日々の教育活動を行っています。全日制課程には筑豊地区で唯一の専門学科「英語科」が設置されており、英語力や国際感覚を高める取組が行われています。

1 授業改善の推進

(1) 教務部と研修部による推進

教務部は主に研究授業や授業検討会の企画、資料図書の充実、ICT機器の整備を行い、研修部が具体的な授業手法に関する職員研修を行います。両部が連携して取組を推進した結果、アクティブ・ラーニングについての理解が浸透し「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざしてグループワークや協働的な学習活動を授業に取り入れる教員が増加しています。

8月には教育課程研究集会の報告を兼ねた研修会を運営委員対象に実施し、次期学習指導要領を見据えた準備への気運も高まりつつあります。

(2) 4技能統合型の英語の授業

平成28年度には「福岡県英語教員指導力向上研修」の研修協力校となり、年間4回の公開研究授業を実施し、外部有識者の指導・助言を受けながら4技能統合型の授業づくりに英語科全員で取り組み、指導力の向上を図ることができました。

2 専門学科「英語科」（以下「英語科」という。）の取組

(1) 学校行事と授業の連動

1年次のサマーキャンプ（2泊3日の語学研修）、2年次の海外語学研修（ホームステイ）、文化祭での英語劇の発表等の学校行事と授業を連動させることで、実際に英語を使う場面を充実させ、実践的な英語力を高める指導を行っています。英語でのアウトプットを主体とした行事が多く、卒業までの3年間で英語力が飛躍的に向上します。

(2) コミュニケーション能力を向上させるための工夫

A L Tとのチームティーチングを中心に、英語でコミュニケーションを図りながら、外国事情や異文化に関する理解を深める授業を行っています。また、グループワークや集団討論を取り入れることでプレゼンテーション能力の育成も図っています。その結果、人前で話せなかった生徒が堂々と話せるようになる等、コミュニケーション能力の向上が見られるようになりました。

「英語科」での指導のノウハウやリソースが普通科での授業改善にもつながっています。

3 各教科等での実践例

(1) 総合的な学習の時間

総合的な学習の時間では、グループワークを中心とし、多くの情報を収集し他者と協働して課題に取り組み、解決する能力を育てています。また、自己の在り方や生き方を明確にし、自己の進路を探求するような活動にも取り組んでいます。

(2) 理科（化学）

「学習内容の説明→班別グループワーク（演習）→まとめ」という流れで、学習内容の理解を深める授

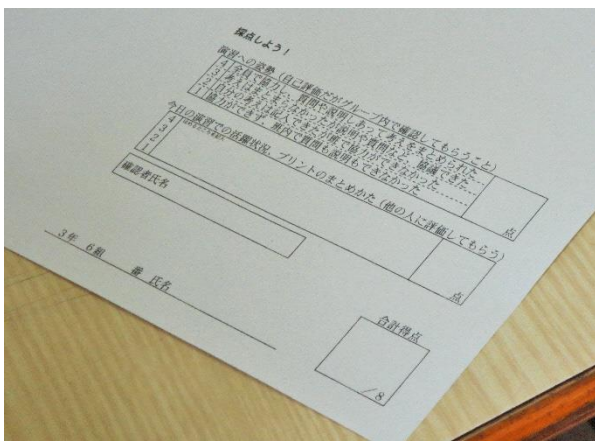
業が実施されています。授業時間を効率的に活用するために、板書と全く同じ内容のワークシートを配布して要点を書き込ませています。ワークシートはそのままノートに貼りやすい大ききで作成しており、授業後の復習にも役立っています。

各教科で反転授業の導入、生徒の自主学習の成果発表の実施、授業のまとめや振り返りの充実等の工夫がなされており、主体的な学びを促す授業改善が進んでいます。

(3) 学習評価について

アクティブ・ラーニングの導入により、学習評価法の改善も進んでいます。

生徒による自己評価や相互評価を毎時間取り入れている授業では、生徒同士が互いを認め合う雰囲気ができ、個々の自己肯定感の向上が見られます。評価項目には「知識・理解」以外の項目を入れ、考查結果等には現れにくい「学びに向かう姿勢」が評価できるように工夫されています。この取組は個々の生徒の実態把握の助けにもなり、自己肯定感が極端に低い生徒や学習意欲が低い生徒に対しての速やかな支援につながっています。



採点しよう

班での協力（評価点は班の中で話し合ってみんな同じ点にする）

4	質問したり説明し合ったりして全員で全問理解できた	7 点
3	質問したり説明し合ったりして何人が理解できた	
2	質問したり説明し合ったりして一人だけ理解できた	
1	質問したり説明し合ったりできず、あまり理解できてない	

プリントのまとめ方や活動の様子(活躍)の評価（他の人に書いてもらう）

4	先生にきいけり、おしえすり、おしえそらったり	4 点
3	積極的だった！	
2		
1		

点数に○をつける ほめる内容を書くこと

合計 8 / 8

班内チェック者

自己評価、他者評価の記入欄
(毎時間のワークシートに記載)

4 アクティブ・ラーニング導入の成果

(1) 生徒の主体性の向上

授業では、活動の意義を捉えて積極的に参加する生徒が増えました。友人と励まし合ったり質問し合ったりしながら対話の良さを実感し、自己有用感を高めている姿がみられます。様々な行事では生徒が企画・運営を主体的に行い、人間関係を構築する力や協力して困難を克服する力が育まれています。

また、授業でグループワークを経験した生徒がホームルーム活動でグループワークの提案をする等、進んで自らの学びの場を構築しようとする意識も向上しています。

(2) 個に応じた指導の充実

担任と教科担当者が連携し、グループワークの状況報告やワークシートの確認等、多方面からの生徒理解が可能になっています。画一的な講義型の授業ではなかなか個別の状況の把握、人間関係、クラスの雰囲気等の把握が難しいですが、活動があるとその様子が把握しやすく、また「気になる生徒」の状況も浮き彫りになるため教員相互の連携がしやすくなっています。

5 今後の方向性

嘉穂東高等学校は「地域に貢献できる人材を育てている」という信頼を得ており、これまでの歴史と伝統を大切にしながら、「グローバル」な人材の育成をめざしています。そのためにも今後、全教科での「アクティブ・ラーニングの視点を取り入れた授業改善」とその成果の発信に力を入れていきます。